

令和3年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

入賞作品集



令和3年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

募 集 広報ちがさき5月1日号及び学校を通じて市内在住・在学の小学校6年生と中学校2年生を対象に「平和について」のポスター・作文を募集。

| | | | |
|------|--------------|----|------|
| 参加状況 | 小学校6年生ポスターの部 | 7校 | 741人 |
| | 小学校6年生作文の部 | 3校 | 208人 |
| | 中学校2年生ポスターの部 | 7校 | 47人 |
| | 中学校2年生作文の部 | 2校 | 8人 |

審 査

- (1) 一次審査
 - ・ポスターの部
6月23日 15時30分から17時まで
市役所本庁舎4階 会議室1～5
 - ・作文の部
6月2日から6月10日まで
- (2) 最終審査
 - ・ポスターの部
7月1日 15時から17時まで
男女共同参画推進センターいこりあ 大会議室
 - ・作文の部
6月15日から6月23日まで
- (3) 賞の決定
7月1日 15時から17時まで
男女共同参画推進センターいこりあ 大会議室

審 査 員

- (1) 一次審査員
茅ヶ崎・寒川地区中学校教育研究会推薦教諭
(ポスター4人・作文2人)
- (2) 最終審査員
市長、市議会議長、教育委員会教育長、文化生涯学習部長、
教育指導担当部長、学校教育指導課長、男女共同参画課長

目次

ポスターの部（小学校六年生） 入賞者

市長賞

平和の歌をみんなで奏でよう～あなたが指揮者です～

小和田小学校

高木

悠花

・
・
・
・

1

議長賞

つないでいこうずっと 平和を

汐見台小学校

松村

芽衣

・
・
・
・

1

教育長賞

世界へ平和を

東海岸小学校

江崎

寛菜

・
・
・
・

2

ポスターの部（中学校二年生）入賞者

市長賞

私達が変わえる番

円蔵中学校

橋本

美咲

・
・
・
・

3

議長賞

空が青いつて幸せ。

北陽中学校

須田

さくら

・
・
・
・

3

教育長賞

あなたの言葉が平和をつかむ

浜須賀中学校

小林

杏海

・
・
・
・

4

作文の部（小学校六年生）入賞者

市長賞

自分にできる小さなこと

松浪小学校

佐藤 さととう
愛菜 あいな

・
・
・
・

5

議長賞

身近にある平和を大切に

室田小学校

坂田 さかた
丈陽 ともはる

・
・
・
・

6

教育長賞

戦争

松浪小学校

千葉 ちね
ゆず ぼ

・
・
・
・

7

作文の部（中学校二年生）入賞者

市長賞

平和とは何か

浜須賀中学校

内田うちだ

望愛奈もあな

・
・
・
・

8

議長賞

「学ぶ」から「行動」へ

鶴嶺中学校

内海うちみ

結菜ゆいな

・
・
・
・

9

教育長賞

みんなが平和な世界

浜須賀中学校

平林ひらばやし

瑠奈るな

・
・
・
・

10

教育長賞

東海岸小学校

江崎
寛菜



ポスターの部（中学校二年生）

市長賞



円蔵中学校

橋本 美咲

議長賞



北陽中学校

須田 さくら

教育長賞

浜須賀中学校

小林
杏海



作文の部（小学六年生）

市長賞

自分にできる小さなこと

松浪小学校

佐藤 愛菜

私は、戦争や原爆について初めて考えました。一年生の時にひめゆりの塔に行ったことがあります。そんなことが起きていたのか理解できなくて、「こわいな」としか思っていませんでした。でも、平和について学習した今改めて考えると、たくさん犠牲者がいるし、もし自分がその場にいたら、と思うとひめゆり学徒隊の人や戦争に巻き込まれてしまった人たちは、すごく大変な思いをしていたんだな、とこわくなりました。

これは原爆も同じだと思います。いきなり爆弾が落ちてきて戦争に関係のない子供まで何が起こったのかも分からず、死んでしまうそんな世界は、絶対に良くないと思いました。でも、それが正義だと思っただけのようなことを日本もやっていたんだと思うと、昔の日本人が気の毒に感じました。今は、本やアニメ、テレビなどで、本当の正義とは何か身近に知ることができて、むしろ平和ほけしているぐらいです。今の日本はすごく平和で、戦争のことを考える必要がありません。実際、私も戦争のくわしいことを何も知りませんでした。

ですが、世界から戦争や紛争はなくなりません。今も、多くの人々

が犠牲になっています。きっと私と同じくらいの子供もいると思います。そんな、辛い思いをしている人たちがいるのに、自分は何も知らずに生きていくわけにはいきません。直接助けられることができなくても、戦争や紛争のことを知ろうとすることはできます。自分には関係ないからって何もしないのではなくて、自分にできることをやろうと思えました。

人はいろんな考えを持っています。自分とはちがう考えを持っている人たちはたくさんいます。その考えのちがいがけんかになることもあると思います。でも、けんかしたときに話し合っ解決できることもあります。最初からけんかをしないことが一番良いと思いますが、けんかをしたとき、けんかをしているのを見つけたときは、相手の考えを尊重し合ったり、話し合っ解決したりすることで、身のまわりがもっと平和になるんじゃないかな、と思いました。これから、もし私がけんかをしたら、自分が正しいんだ、と相手の意見や考えを否定するばかりではなくて、まず、どうして相手がそう考えるのか、相手の気持ちになって考えてみて、理解して、その考えの良さを見つけてみようと思います。これから、身近なところから平和をたくさん増やしていきたいです。

議長賞

身近にある平和を大切に

室田小学校

坂田^{さかた} 丈陽^{ともはる}

みなさん、今の平和が保たれているのはなぜだと思いますか。

それは、一九四七（昭和二十二年）の五月三日に施行された日本国憲法の三原則の一つの「平和主義」があることが大きく影響したのです。それによって日本人は戦力・武器を持つことを制限されているのです。

その一方で、外国では、平和主義が無く、第二次世界大戦が終戦した後も戦っている国が多くある中、日本は、世界でも平和と言われる数少ない国であります。

そのことがあっても、家庭内暴力や虐待、DVなどのことも起こっているのが現状です。それについては法律が適用されていますが、自分達の意識からも無くすることはできませんと思います。

そこで、僕は、憲法や法律などの方法だけで問題を解決するのではなく、自分達で争いごとやけんかをできるだけ無くすように呼びかけることが必要だと考えます。平和を保つためならば譲り合いの意識や相手のことを尊重すること、権利ばかりを主張しない考えが必要だと思えます。

これからは、自分達で争いごとを解決し、無くす意識を高める活動をしていかなければならないと僕は、考えました。

教育長賞

戦争

松浪小学校

千葉^{ちば} ゆず

私は、「戦争」というのは「言葉」でしか知りませんでした。もちろん言葉だけではないことは知っていました。しかし、具体的にどんなに酷かったのか、どのくらいの人が犠牲になったのかなどはまったく知りませんでした。

樫村従子さんの話を聞いて、戦争の怖さや酷さ、犠牲になった人々の辛さを知って「自分は今、なんて幸せなんだろう。」と思いました。戦争はそのときだけでなく、原爆の後遺症や差別、食べ物がなかったため、飢えや貧困など、終戦後も、人々を苦しませ続けます。

私はまだまだ子どもです。子どもの私にできることはあまりないかもしれませんが。でも被爆体験者の方はほとんどなくなっていきます。もしかしたら、被爆体験者の方に直接お話を聞けるのは私たちが最後の世代かもしれないと思うと、しっかりと話を聞いて、次の世代につなげていかなきゃいけないと責任を感じました。今すぐ世界中の大統領に「戦争はやっちゃだめ」なんて大それたことはできません。でも、これから中学、高校と戦争の勉強をしていく中で、正しい知識を身につけ、それを周りの人、戦争を知らない人、下の世代などに発信していくことで初めて「もう二度と戦争をおこしたくない」という樫村さんの気持ちに伝えられるのではないかと思います。

戦争は最初、けんかで始まります。つまり戦争とは、簡単に言うと、大きなけんかなのです。私も友だちや家族とけんかをしたことがあります。私はけんかをして良いと思っています。

みんなで「平和とは何だろう?」ということについて話し合った時、「けんかをしなれば平和だよ?」と言っていた友だちがいました。私はけんかをして、大ごとになる前に仲直りすることが大切だと思っています。けんかをして、相手の知らない部分も知ることができるかもしれません。

「けんかするほど仲が良い」という言葉を聞いたことがありませんか。この言葉は、けんかをしたから仲が良くなったのではなく、けんかをして仲直りをしたから、仲が良くなったんだと思います。

けんかをして良いんです。でも、何度けんかをして、最後にはきちんと仲直りをする事が大切だと、私は思います。

なので私は、けんかをして、仲直りをする事から始めていきたいと思っています。

けんかをしたら、少し頭を冷やします。そして、自分の悪かった所を考えて、自分から謝れる人になりたいです。

作文の部（中学二年生）

市長賞

平和とは何か

浜須賀中学校

内田^{うちだ}望愛^{もあひ}奈^な

私は、お互いに嫌と感じながらその状況を誰もが見過ごしていることが一番平和から離れていると思います。声を上げることができない、事を大きくしたくないと思っている人が多くなると小さな火種があつという間に燃え盛る炎に変わってしまいます。いじめや誹謗中傷、戦争だつてそうです。戦争はお互いの利害が一致せず、話し合いをしても納得がいかず、自分達の要望をつき通すための最終手段として相手を傷つけ合う、武力という一番使つてはいけないものを手に取つてしまい、戦争が起こつてしまいます。人類は武器で何人殺めたのかも分からないぐらいの人の命を奪ってきました。戦争は悲しみしか生まないと思います。

戦争を起こさないためには話し合いの部分が重要だと思えます。話し合いでお互いが納得すれば戦争も起こらないからです。話し合いでは声を上げることができない人達が声を上げることで自分の意見を明白にでき、より良い方向に進んでいきます。ではなぜ声を上げることができないのでしょうか。それは怖いからです。自分はこう思つて

いるけれど、反対意見の人が多くて悪口を言われると思つて了うからです。私も時々そのようなことを考えて了います。声を上げることができない人が意見を言える環境にするためにはお互いのことを尊重し合うことが大切だと思えます。尊重し合つていけば武力も使わないし、相手が嫌なことは絶対にしません。例えばLGBTの方々。昔はこのような考え方は無かつたと思えます。そのような事を言つたら「男らしく生きろ。」や「女の子らしく振舞いなさい。」など散々な事を言われているはずですが。しかし今は、そのようなことは言われていません。相手の個性として理解し、尊重し合っているからです。私はこんなに素敵な、素晴らしい世の中に生まれたことがとても幸せです。

私も次の世代の子達が幸せだと感じる事が出来るように、尊重し合うことの大切さを伝えたいです。なので私は相手の良いところを探せるようになりたいです。尊重し合える様になるための一番近いルートは相手の良い点を見つけていくことです。良い点があれば差別もありません。そのために、色々な人に接して良い点を見つけてお互いを尊重し合えることが私の目標です。

そして、私の考える平和とは、お互いを尊重していることだと思います。

議長賞

「学ぶ」から「行動」へ

鶴嶺中学校

内海 結菜

二〇二〇年八月。戦後七十五年を迎え、「戦後生まれ八割」という記事がネットニュースの見出しになっていた。そして、戦争を体験した人たちの平均年齢は今では八十一・七歳となり、かなり高齢化している。この事実には私は、現在の社会は「戦後」ではなく、「戦前」なのではないかという不安を抱いている。どんなに情報を知識として得たとしても、それは自らの「体験」とは違う。だから、戦争体験者が一人もいなくなってしまうことが、私は不安でたまらないのだ。

現在、鶴嶺中学校では、総合学習の一環として「SDGs」について学んでいる。最初の授業ではユニセフの動画を見たり、先生たちの話を聞いたりすることから「開発途上国の現状」を知識として得ることができた。「水という限りある資源」や「食糧廃棄の問題について」、「学校教育の大切さ」など十七ある持続可能な目標に対して自分でテーマを決め調べ学習を行う。最終的には「自分たちにできること」を提案するのだが、私はまだ心のどこかで「他人事」という意識があるのではないかと思ってしまう。私たち一人ひとりが「自分事」として考え、意識した生活をしているとは全く思えないのだ。例えば、学校では毎日多くの落とし物がある。消しゴムや鉛筆などの文房具からハ

ンカチや水筒に至るまでたくさんの方が無記名になって放置されている。もし、世界に目を向け、私たちが学習したことを自分事として認識することができていたら、このような現状は改善されるのではないだろうか。このことからわかるように、ゴールは「学ぶこと」ではなく、そこから「自らの行動を変化させること」なのだ。私は考える。「学ぶ」はスタートに過ぎないのだ。私たちは開発途上国の現状を自分と切り離して考えるのではなく、まずは自分事として捉えるべきであり、そうすることで確実に自らの行動を見直す必然性が生まれる。「戦争」も同じだろう。地球全体では一万を超える核兵器が保有されているにもかかわらず、「戦争」を過去の出来事として捉え、自分には関係ないと思っている人が世界には大勢いるのだ。私は、このことに対して唯一の被爆国である日本が担う役割は大きいと思っっている。戦争体験者の減少に伴い、戦争に対する恐怖心や警戒心が薄れている今こそ、私たち日本人が「戦争」を自分事として捉える必要があるのではないだろうか。

私は「戦争」を「記憶」から「歴史」にしてはならないと思う。日本の国是である「非核三原則」がなぜあるのか。「平和」を保つためにももう一度しっかりと考えてほしい。そして、私たち一人ひとりが「学ぶ」から「行動」へと移す勇気をもつべきなのだ。今を「戦前」にしないためにも……。

教育長賞

みんなが平和な世界

浜須賀中学校

平林 瑠奈

私はみんなが平和な世界があればどれだけ幸せなことだろうと思います。けれどもそれはとても難しい事だと感じたのです。なぜなら世界中には五十億人以上もの人々がいます。その五十億人の人たち全員が平和だということは無いと思います。誰かが平和に暮らすためには誰かががまんしていると思うのです。例えば元々一人の子がイジメられていてそれを助けた人がイジメの的になり助けられた人は的からはずれる。このようなことなどがあります。

なので私は考えました。皆が平和な暮らしとは？

私なりの考えは、助け合いお互いを大切に思うということです。苦しんでいる人や悲しんでいる人がいればその苦しみや悲しみを分け合うのです。そのためにはその苦しみや悲しみを分け合う人が必要です。なので毎日生きてくうえに人を大切に助け合うのです。日々人を大切にしていけばいつかそれが返ってくると思います。そうした小さな行動が平和につながるのだと思います。

また、「ありがとう」や「ごめんなさい」などの日常によく使う言葉もすごく大事です。そういうことがきちんとと言える人が世界にたくさん増えていけば幸せであふれると思います。one for all, all for one 一人はみんなのためにみんなは一人のためという言葉です。こ

のように誰かのためにみんなが行動し、誰かがみんなのために行動する世界はとても素敵だと思います。私はこれからの世界がそんな風になっていってほしいと思います。そのために私がする事は困っている人がいたら助けてあげられないか？と考えて行動したり人の気持ちを考えて生活するのも重要だと思います。こうした小さな事をつみかさねていくのです。そうしたらきっと平和になると思うのです。私は世界平和を願います。

令和3年度 「平和について」ポスター・作文コンテスト入賞作品集

令和3（2021）年8月発行

第1刷 70部作成

発行 茅ヶ崎市

編集 文化生涯学習部男女共同参画課

〒253-0044

神奈川県茅ヶ崎市新栄町12番12号茅ヶ崎トラストビル4階

茅ヶ崎市男女共同参画推進センター いこりあ内

電話 0467-57-1414

FAX 0467-57-1666

ホームページ <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

※掲載されている作品は、令和3年6月15日以前に書かれたものです。

※作品集の作成にあたり、明らかな誤字・脱字以外は原文のままに編集を行っています。

